

沖縄協会だより

2023.8.

No.28



斎藤政一 作

うるま島(うるわしき島) 号数：F100

斎藤政一 大正14年 埼玉県生

画歴

埼玉師範学校卒、田崎廣助に師事。日展特選2回、第10回一水会展入選・一水会佳作賞・同優秀賞、安井賞候補展出品。一水会常任委員、日展審査員・同会員。

制作意図

石垣に沿った白い道。黒ぐろとしたふく木に赤い屋根。その向うにエメラルドの珊瑚礁の海がひろがり、雲が湧き上っていた。この八重山の小さな島の風景が何かでこわされることがあってはならない。いつまでもこの風景が残ってこのままであって欲しい。こんな願いがあって作画しました。

(昭和56年2月13日寄贈)

額サイズ

縦×横×厚【153×183×9.5 cm】



沖縄平和祈念堂美術館
所蔵絵画紹介

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。



「疾風知勁草」～東京沖縄県人会の紹介～

東京沖縄県人会 会長 仲松健雄

東京沖縄県人会は、1956（昭和31）年9月9日に結成されました。結成当時の沖縄は米国の施政権下にあり、地元沖縄では祖国復帰運動、米軍基地返還運動を展開していました。東京にいるウチナーンチュも故郷のために貢献しようという趣旨で発足して、それらの運動と連携して活動を行いました。

1972年に沖縄が本土に復帰してから、当会の活動は次第に会員の交流や親睦が中心になり、本土の方々にも沖縄に関心を持つてもらい、沖縄を正しく理解してもらうために「沖縄芸能フェスティバル」や講演会等を定期的に開催しています。また、会報「おきなわの声」を1978年に創刊し、会員に首都圏の沖縄関係イベントや公演・ライブ情報を届けています。

表題は「疾風に勁草を知る（しつぷうにけいそうをしる）」と読みます。「後漢書」にあるこの言葉は、猛烈に激しい風（疾風）が吹き荒れて初めて強い草（勁草）が見分けられるように、困難にあつて初めて人の意思の強さが分かるという意味です。

新型コロナウイルス感染症拡大は、私たちの社会を「変えさせ経済・くらし・文化・医療教

育などあらゆる分野に大きな影響を与え生活様式を大きく変化させましたが、コロナ禍も収束に向かい日常生活は正常化しつつあります。

東京沖縄県人会は「コロナを克服、前に進む」という精神で、3年以上に亘る困難を理事と会員の強い意志で乗り越えることができ、勁草であることが証明できました。その大きな要因は「会員増強キャンペーン」が大成功して、2021年度新規入会者154名、2022年度177名と直近2年間で331名の新しい仲間が増え総会員数が600名を超えました。

沖縄の本土復帰50周年を記念して東京国立劇場大劇場で開催した「沖縄芸能フェスティバル2022」（2022年5月8日）は、人間国宝や東京琉球舞踊協会師匠の皆様方ならびにアーティストの方々に沖縄伝統芸能、沖縄ポップスや現代版組踊等を演じていただき、大成功を収めました。

東京沖縄県人会2022年度決算は、会費収入の増大と「沖縄芸能フェスティバル2022」の成功により、収支状況が改善されて稀に見る好決算でした。「会員増強キャンペーン」は財政の安定化に大きく貢献する

と共に、理事・会員の意識改革にも繋がり盤石な組織づくりを推進する礎を築くことが出来ました。2023年度も更なる財政の安定化に向けて「会員増強キャンペーン」を継続実施して、当会を任意団体から一般財団法人化へ向けて具体的な準備に入ります。

2023年度は、ビックなイベントが奇数月に開催されます。7月8日～9日は、浅草のすしや通り商店街で初の「沖縄フェア in 浅草」、9月18日（敬老の日）は当会の最高顧問川平朝清先生のカジマヤー祝いをホテルニューオータニ東京「鶴の間」で大々的に開催します。11月12日（日）は、今年45周年を迎える板橋区沖縄県人会と共催で「沖縄芸能フェスティバル2023」を開催、2024年1月21日（日）に東武ホテルレバント東京で「新年会2024」を開催します。

会員相互の交流と親睦をはかり、平和で豊かな郷土づくりに寄与する当会の目的を推進しながら、スローガンで定めた三つの「わ」「会員の明るい輪、楽しい和、交流の環」を心がけて、「ふるさと貢献」と「沖縄愛」の精神を持ち続けながら、活気に満ちあふれた東京沖縄県人会を目指します。

沖縄平和祈念堂トピックス

★第43回こどもまつり「こども琉球芸能奉納」

奉納

こどもの日の5月5日、第43回こどもまつり「こども琉球芸能奉納」を開催した。こども達の健やかで心豊かな成長を願い、今できる芸能をおして平和の尊さ、悲惨な戦争を考え学ぶ機会をつくるのが目的。奉納に先立ち、出演者と室内すべての方々で戦没者に追悼の思いを寄せ、世界の恒久平和を祈念して黙祷を捧げた。つづいて沖縄平和祈念像の前で、4歳児から小・中高校生に沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻琉球古典音楽コースの学生教員の総勢74人が琉球舞踊・空手・演武・琉球古典音楽・琉球箏曲の数々を奉納献奏した。今回は約280人の観衆が訪れた。



空手演武を奉納するこども達

★沖縄平和祈念像「浄め」

6月14日、当協会は恒例の沖縄平和祈念像「浄め」を行った。この浄めは6月23日「慰霊の日」と「令和5年沖縄全戦没者追悼式」そして6月22日に平和祈念堂で行う「令和5年沖縄全戦没者追悼式前夜祭」を厳粛な気持ちで迎えるために実施しており、毎年慰霊の日の前と年末の2回実施している。今回は沖縄バス(株)・東陽バス(株)のガイド、沖縄県工芸振興センター職員・講師・研修生・研修修了生、漆工関係者の皆さん、そして、平和祈念像の制作スタッフであられた糸数政次氏(当協会理事・浦添市美術館長)が参加し、平和祈念堂職員とあわせて26人で実施した。参加者は戦没者に対する慰霊と世界の恒久平和を願い平和祈念像の埃を払い浄めた。

★琉球手まりの奉納

6月15日、琉球手まり保存会(宮城玲子代表)写真左から3番目の皆さんが、戦没者追悼と世界の恒久平和を祈念して制作した琉球手まりを宮城代表と他5人の方々が奉納のため平和祈念堂を訪れた。琉球手まり(沖縄の方言で手まりを「マリー」は、



琉球手まり保存会(宮城玲子代表)の皆さん

昔から女の子の玩具として祖母や母親によって作られていたもの。特に「十三マリー」は十三歳になった娘の祝いに、これから訪れる幸せな結婚生活が送れますようにと願いを込めて作られた。現在は縁起物として作られている。二行は6月23日の沖縄慰霊の日先立ち来堂。代表の皆さんは同じく制作した方々の思いとあわせて黙祷を捧げ、平和祈念像の台座に色鮮やかで様々な模様の30個を奉納した。当協会では、奉納された手まりを平和祈念堂に訪れる国内外の要人やご協力を仰いでいる方々に贈呈している。

★第8回ぬちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁

6月17日、平和の礎に刻銘された24万余の人々の追悼と恒久平和の祈りを世界に発信する「第8回ぬちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁」(主催・レクイエムコンサート実行委員会、共催・沖縄県立芸術大学、沖縄協会が開催され、約280人の聴衆が平和祈念堂に訪れた。このコンサートは、沖縄戦後、生き残った我々が元氣を出して頑張ろうと励まし、勇気づけ、沖縄の復興に尽力した小那覇舞太小那覇



沖縄県立芸術大学オーケストラ、ソリスト、沖縄レクイエム合唱団

全孝氏の言葉「ぬちぬぐすーじさびら」(命のお祝いをはじめ)をタイトルに、あらためて戦没者に深く思いをいたし、戦争、基地のない平和な沖縄に向けて努力していく決意を込めて開かれている。演目は、モーツァルトの「レクイエム」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」。沖縄県立芸術大学オーケストラにソリストと沖縄レクイエム合唱団の合計70人によって、厳かに奏でるオーケストラの演奏と堂内に響き渡る歌声に聴衆は深く魅了され、感動とともに惜しめない拍手を送った。



★令和5年沖縄全戦没者追悼式前夜祭

6月22日、当協会は令和5年沖縄全戦没者追悼式前夜祭を開催した。この行事は、慰霊の日と沖縄県・沖縄県議会が主催する沖縄全戦没者追悼式をより意義あらしめるため、沖縄県、(一財)沖縄県遺族連合会、(公財)沖縄県平和祈念財団の共催を得て毎年開催している。今回は、4年ぶりに従来の形式で実施した。第一部式典では、来賓・ご遺族・琉球古典音楽献奏者・琉球舞踊奉納者代表各位が参列するなか、「鎮魂の火」の献火、「平和の鐘」の献鐘を合図に黙祷を捧げ、代表者による献花が行われた。次に、清水治会長より「私達は、現在の生活が幾多の尊い犠牲の上に築かれたことを決して忘れず、戦争への反省と世界平和への決意を新たに、戦没者追悼の象徴である沖縄平和祈念堂から全世界の人々に、恒久平和の実現を訴え続けていくことを誓う」と鎮魂(しづたま)のことは述べた。つづいて第二部は、前夜祭の主題を表す琉歌三首を歌唱する琉球古典音楽「瓦屋節・金武節・辺野喜節」の合同献奏を琉球古典音楽湛水流保存会・琉球古典音楽安富祖流絃聲会・琉球古典音楽野村流音楽協会・琉球古典音楽野村流保存会・琉球古典音楽野村流伝

統音楽協会と琉球箏曲興陽会・琉球箏曲保存会の代表の方々と行われた。次に、本土から移入され沖縄のみに継承されている貴重な琉球箏曲の「瀧落管攪・船頭節」を琉球箏曲興陽会、「江戸管攪・對馬節」を琉球箏曲保存会の代表者で独奏・独唱献奏が行われた。最後の舞踊奉納は、琉球舞踊の中から古典舞踊・老人踊り「かぎやで風(口上あり)」、古典舞踊・女踊り「芋引」、雑踊り「浜千鳥」を琉球界の第一線で活躍する家元・会主の方々が行った。今回出演の先生方の戦没者慰霊と恒久平和を祈る献奏と琉球舞踊の奉納は、堂内の方々に魅了し深い感動を与えた。



琉球舞踊の奉納

★岸田文雄内閣総理大臣来堂

6月23日、岸田文雄内閣総理大臣が沖縄平和祈念堂を訪れた。岸田総理は、沖縄県・沖縄県議会主催、当沖縄協会共催の「令和5年沖縄全戦没者追悼式」に参列のため来沖し、国立沖縄戦没者墓苑の参拝につづいて平和祈念堂に到着された。平和祈念堂では岸田総理を清水治当協会会長と上原良幸副会長、新垣昌頼専務理事が出迎えた。岸田総理は出発に際し、正午の黙祷に合わせて行う平和の魂―放蝶セレモニーに参加するガールスカウトの児童生徒や関係者に声をかけ、追悼式開場に向かった。

★沖縄慰霊の日

「平和の魂ーオオゴマダラ」の放蝶

6月23日、令和5年沖縄全戦没者追悼式前夜祭関連行事の「平和の魂ーオオゴマダラ」の放蝶を実施した。蝶のことをギリシャ語でプシケ（魂）の意ということから、平和祈念堂の蝶園で平和の魂としてオオゴマダラを育て、戦没者を追悼し世界平和の実現を祈る沖縄平和祈念堂の使者として、これまで慰霊の日に摩文仁の空へ放蝶を実施している。放蝶に先立ち、参加者全員で正午にあわせて平和の鐘の献鐘、戦没者慰霊と恒久平和を祈る黙祷を行った。つづいてガールスカウトの児童生徒や関係者によってオオゴマダラ蝶10匹の放蝶が行われた。



ガールスカウトの皆さんによる放蝶

★「EHON FOR PEACE」開催

EHON

7月9日、絵本や読み聞かせの普及活動と研修を行う一般財団法人絵本未来創造機

2023.8 No.28

構（仲宗根敦子代表が絵本をとおして平和を考へるイベント「EHON FOR PEACE」を平和祈念堂で開催した。プログラムに絵本作家・長谷川義史さんの講演会があり、長谷川さんは自身の絵本の読み聞かせや今ある平和や戦争について語った。参加した多くの親子連れは長谷川さんの話に夢中になって聞き入った。

協会関係事業他

募集案内など

★高良義雄基金の増額

8月2日、勉学支援金「高良義雄基金」を設置している高良義雄さんから指定寄付として100,000円が寄せられた。これにより「高良義雄基金」は4,100,000円となり、「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」の総額は68,069,000円となった。

★第31回金城芳子基金

助成対象者決定

4月23日、当協会が主催する31回（令和4年度）金城芳子基金運営委員会が開催され、応募があった4件の中から「與儀育子」生理の貧困を考える会おきなわを助成対象に決定した。5月18日、県庁記者クラブで会見贈呈式が行われ、助成金30万円が贈られた。

★第13回琉球大学家政学科同窓会基金

金助成対象者決定

第13回琉球大学家政学科同窓会沖縄協会選考委員会は、審査会を開催し、一般社団法人みんなのももやま子（白坂敦子代表）「中の町の子」もまたの余暇を考え、聴き合う会

★第45回（令和5年度）

沖縄研究奨励賞推薦応募案内

「なかのまちの子どものみかた」を助成対象者に決定した。7月14日、県庁記者クラブで会見贈呈式が行われ、堀川美智子委員長から助成金30万円が贈られた。

沖縄研究奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然科学・人文科学・社会科学）を行なっている新進研究者（又はグループ）の中から受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞の研究助成金50万円を贈り、表彰するものです。応募期間は7月15日（9月30日）（当日消印有効）

★沖縄平和祈念堂改修工事に伴う

ご寄付のお願い

開堂から45年を迎えた沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様にご経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆづち銀行専用の振込票を送付させていただきます。

また、インターネットを利用してのご寄付が可能となりました。Syncable（シンカブル）というプラットフォームにアクセスしていただき、団体を探すページから「沖縄協会」で検索してください。

公益財団法人 沖縄協会

【電話番号】03-6231-1433

【FAX】03-6231-1436

※詳細は、「公益財団法人沖縄協会のホームページより

沖縄平和祈念堂美術館

沖縄を描く：沖縄をモチーフにした作品 3

首里の石畳 五十畑勝吉 作

五十畑勝吉 昭和8年 東京都生

画歴

中央大学卒。日展、一水会、大潮展、朔日展など入選。現代洋画精鋭選抜展銅賞、同展銀賞、同展金賞。風景画教室を主宰。

号数 F10

額サイズ 縦×横×厚【62×69.5×4.5 cm】

